

武蔵村山市長期総合計画審議会（第3回～第5回） 意見の整理

○基本構想（素案）に対する主な意見

章	意見概要
第1章 計画の概要	○特になし。
第2章 計画の背景と課題	<p>○まちづくりの現状について、「このような施策を展開してきた」という内容が記されているが、逆に「このようなことができなかった」という内容が必要ではないか。</p> <p>○課題について、抽象的でこの都市でも書きそうな内容に思える。本市が何を指すのかが見えてこない。</p> <p>○総合計画なので総花的になるのは仕方ないが、もう少し特徴を持たせても良いのではないか。</p> <p>○このまちだからこそできること、この市の大きさに見合ったことをやっていくべき。小さなものを大事にしていくという視点が大切である。</p> <p>○単に行政まかせではなく、市民の義務や責任についても記しておく必要があるのではないか。</p>
第3章 まちづくりの目標	<p>○目標や理念に掲げられている事項は、まちづくりの「手法」が中心であり「形」が見えてこない。</p> <p>○最近の総合計画では、人口予測も横ばいや右肩下がりが一般的な中で、本市の場合は 78,000 人まで伸びている。なぜ右肩あがりなのか、そこにはどのような人が住んでいるのか、主体が見えるようにする必要がある。</p> <p>○文章が抽象的で、本市が目指す都市構造が見えない。例えば市街化区域内農地や狭山丘陵の自然についてどうしていくのかななどを明確に示すべきである。</p> <p>○もう少し「モノレールの整備」を強調すべきではないか。第三次よりもトーンが落ちているような気がする。</p> <p>○将来都市構造図には、ベースに主な道路が入っていないとイメージが共有できない。</p>
第4章 施策の大綱	<p>○全体のトーンとして「市民、事業者、市」が主体となっているが、国や都の協力がないとできないことも多い。そのあたりの表現も入れておく必要があるのではないか。</p> <p>○個々の内容については、基本計画での議論を踏まえた中で調整する。</p>

○基本計画（素案）に対する主な意見

章	意見概要
全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の分野に関わる事項については、それらを串刺しにした本市のまちづくりの目玉を何らかの形で示すべきではないか。 ○計画に目標を設定することは評価するが、各項目の課題に対応した、ふさわしい指標設定を行うべきである。 ○具体施策に関して、実施計画レベルの具体的なものと、抽象的すぎて何をやるかが見えないものが混在しており、バランスが悪い。 ○小項目について、重要性などから掲載の順番などをもう一度精査する必要がある。
第1章 市民が自ら考え行動するまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のコミュニティの根幹が自治会ということを強調するのであれば、NPO法人についてはここから外した方が素直ではないか。 ○自治会の現状について、「運営が高齢者に依存」という記述があるが、地域によっても異なり、高齢者が過負担のため脱会しているという実態もある。 ○自治会の必要性や役割を明確にしておく必要がある。 ○世代間交流の施策として「昔遊びの伝承」なども大切である。 ○どこに入れるかは難しいが、大規模商業施設が周辺地域の交通渋滞を発生させているなどのマイナス要因がある一方で、地域と連携する方法もあるのではないかと。災害時の食料供給や地元生産物のPR、営業時間外での広い駐車場スペースの効果的利用などプラス効果を生むアイデアが考えられる。
第2章 安心していきいきと暮らせるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○防災について、防災安全課が中心となっているが、自主防災組織の結成など地域との関わりが強い部分も多く、地域振興課と一体になった取組が大切である。 ○施策の内容が市の単独事業と国等の窓口業務等が入り混じっており、後者は具体的に書かれているのに対し、前者は漠然とした表現となっている。整理や表現の仕方等に工夫が必要である。
第3章 誰もが自分らしく成長できるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育と生涯教育を区分する必要があるか。今は広義の意味での教育をトータルでとらえる時代となっているのではないかと。 ○学校教育については、他の項目と比べて具体策が細かく出されており、市民の視点では、このくらい細かい方がわかりやすいと思う。 ○例えば太陽光パネルの設置は、学校だから必要なのか、公共施設全体で取組むべきことなのかなど、市の方針を明らかにする必要がある。 ○「特別支援教育の推進」は誤解が生じる可能性あり。現在の流れは、一般教育の中に障害のある子どもを取り込んでいくというのが一般的である。 ○教育では、まず家庭や地域が子どもを育てるといった視点が大事なのではないかと。

章	意見概要
<p>第4章 快適で暮らしやすいまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市民提言やアンケート等から見ても、モノレールの導入は市民の悲願であると言えるが、市としての積極性が見えてこない。関係市町との連携による要望活動など、もう少しアピールするべきではないか。 ○モノレールの整備はいずれにしても長期的な事業であり、短・中期的な交通計画についての考えを入れておくことが必要ではないか。 ○事業には時間を要することは理解できるが、都市計画道路の拡幅予定地など制限を受ける部分については、固定資産税等の優遇措置も必要ではないか。 ○明らかに動いていないものについては、ある時点で都市計画の見直しも必要である。 ○道路の記述を見ると、車中心のまちという印象が強い。「歩いて生活できるまちづくり」の視点が必要ではないか。 ○公園緑地について、防災という視点に加え、環境や生態という視点を加えるべきではないか。また、緑の連続性という意味からは街路樹整備も重要だと思われる。